

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】大谷哲

【所属】(助成決定時)

東北大学大学院文学研究科博士課程後期

【研究題目】

古代キリスト教史料における殉教者個人名の抹消叙述から見た教会内権力構造の政治史的研究

【研究の目的】

本研究は、5世紀までの古代キリスト教会内の権力構造について、特に殉教者の個人名が教会内歴史史料から抹消されるという行為に注目した新たな視点からの分析を行い、殉教者を取り巻く古代教会内の構造を、権力構造に軸をすえて政治史的に解明することを目的とした。ローマ帝国当局から加えられた迫害に際し、法廷での信仰告白貫徹後何らかの理由で処刑されず教会に生還した教徒は生ける「殉教者」として教会内で高い地位を得たことは近年の先行研究によって夙に論じられたところである。助成受給者のこれまでの研究から、生ける殉教者に関する教会内歴史史料の記録では、司教という教会内権力構造の頂点にある者以外が、個人名を抹消されている傾向があることが判明した。そのため本研究では旧来の研究史では軽視されてきたシリア語写本をも検討し、殉教者の個人名抹消行為から読み取られる、司教たちの指導体制と、生ける殉教者という制度外の権威が、古代教会内の権力構造の中どのように位置していたのかを検討した。

【研究の内容・方法】

助成受給者は古代教会の歴史史料、殉教者行伝史料、殉教者歴史料について、殉教者の個人名抹消に着目して分析を行ってきたが、本研究の完成のためには、現在大英博物館に所蔵されているシリア語キリスト教写本「MS 12.150」における、殉教者の名簿リストを詳細に分析する必要があった。既に予備調査によって、当該写本のうち、名簿リスト以外の部分は様々な形で公刊されたものを通じ分析しており、教会史家エウセビオスの著作が収められていたことが判明しており、それゆえ当該リストと、助成受給者がこれまで分析してきた同エウセビオスによる『教会史』・『パレスチナ殉教録』などの相互補完検討によって、殉教者個人名抹消行為の再構成を行う点に本研究の特徴がある。殉教者個人名抹消行為の再構成と、その背景としての教会内の権力構造史に関する政治史的考察を研究論文として公開するためには、国内はもちろんのこと、国際的な水準での議論に耐えうる分析であることを確認する必要があるため、2012年7月に韓国長老派大学で行われた国際学会 Asia-Pacific Early Christian Studies Society 6th International Conference で An interpretation of canons pertaining to the epistles from the confessors: A study on the relationship between confessors and bishops と題し中間報告を行った。その際、関係分野における研究者たちに本研究の主要な過程を占める大英博物館所蔵キリスト教シリア語写本「MS 12.150」の調査に関してアドバイスを受けたところ、当該写本には19世紀に作成された優れた校訂が存在し、そちらを用いる方がより確実な研究成果を上げることができると助言された。帰国後調査を行ったところ、当該の校訂は *The Journal of Sacred Literature and Biblical Record*, 1864-6年のタイトルで名古屋大学・東京大学の附属図書館にそれぞれ収蔵されていることが判明した。そのためロンドンでの調査を取りやめ、両大学図書館での調査・資料複写を行うことで本研究計画の目的をより堅実な形で遂行でき、かつより経済的な助成金使用を行うことが出来ると考え、貴財団に研究計画の変更を承認された上で、上記校訂を両大学図書館で複写し、上記に記した『教会史』・『パレスチナ殉教録』等と相互補完分析を行い、殉教者の個人名抹消行為を検討した。

【結論・考察】

The Journal of Sacred Literature and Biblical Record, 1864-6 年に収録された写本 MS 12.150 におけるシリア語で記された殉教者リストについての分析の結果、内容は極めて短い殉教者たちへの称賛演説であった。殉教者たちの勇気と敬神を褒めたたえ、神に従い殉教することがキリスト教徒の義務であると説いている。末尾近くには称賛を寄せられる殉教者たちの名前が羅列されるが、特定可能な者の大部分は 2 世紀末以降のアンティオキア司教の名前である。ここから、アンティオキア地方に回覧するなどの目的を持って作成された可能性を伺うことができる。また、特定された者たちは使徒職ないし司教位といった教会制度内での高い地位によって個人名記録の栄誉を受けたと推測されることから、古代教会史料における平信徒殉教者の個人名抹消行為を再構成するという本研究の目的は一定水準の達成を見た。ただし、この殉教者たちへの賞賛演説の直後に、エウセビオスに帰すべきか判然としない、不完全な殉教者・告白者の一覧が付されていた。同一覧の文献史学的分析は助成受給者の研究にさらなる発展をもたらすことが予測される。